

子ども地域活動モデルづくり事業

現状と課題

- 地域活動の高齢化、担い手不足、硬直化。
世代間の繋がり希薄化、次世代への継承困難。
- 学校統合で地域で子どもの姿が見えなくなる。
進学で都市部に出て、帰ってこない・・・
- 学校教育での学び・体験（ふるさと教育、
キャリア教育等）の実践の場が必要では？

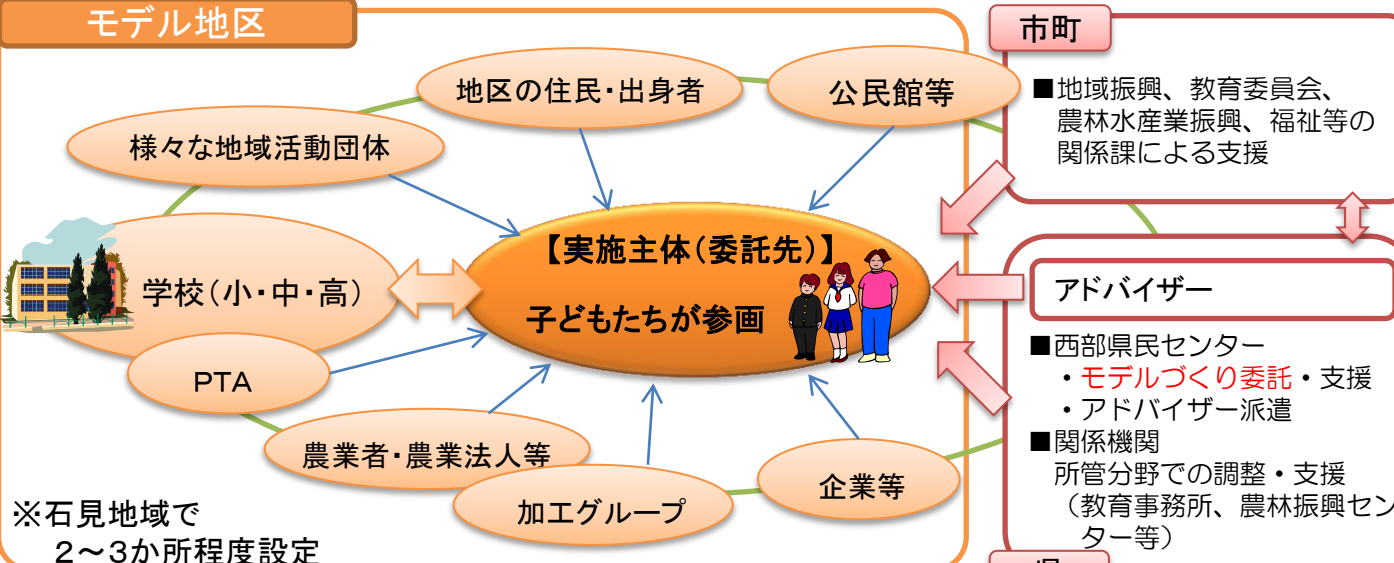
どんなモデル？

- 子どもたちが主体性を持って、
継続的に地域活動
- 地域が活動の場をつくり、サポート
- 収益活動により活動の財源確保

目的・効果

- 地域コミュニティ活動の活性化
 - ・やりがい、担い手確保（親子）、世代継承
 - ・CＢのきっかけ ・地域資源の活用
- 地域の将来を担う子どもたちの育成
郷土愛、地域への誇り、職業観、課題解決能力、実践力、地域貢献、生きる力

モデル地区

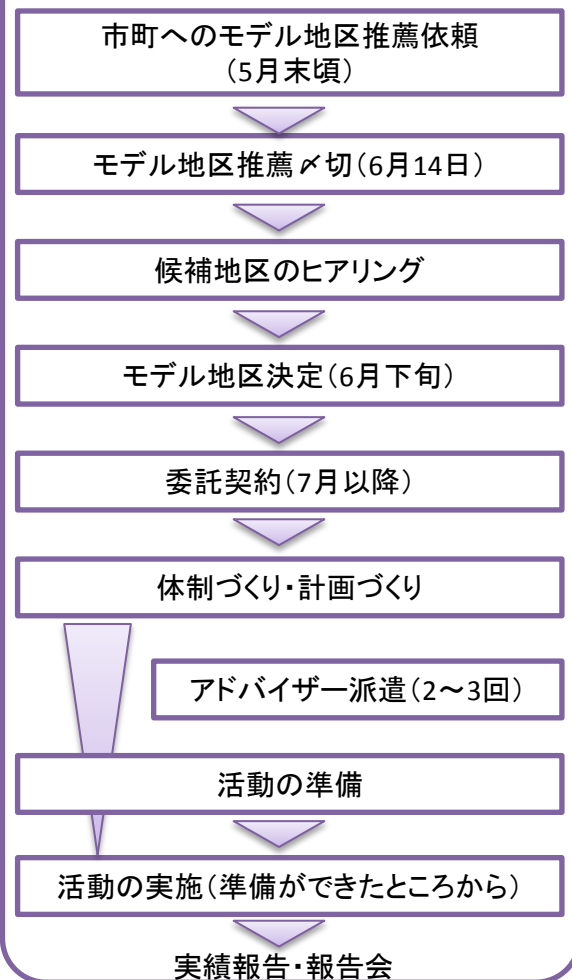


※石見地域で
2～3か所程度設定

実施主体: 住民自治組織、実行委員会等任意団体、NPO法人等
 地区範囲: 公民館等、小学校、中学校の範囲
 選定要件: ①地域としての取組み ②学校・関係団体等との連携
 ③コーディネート役人材 ④財源確保のため収益見込み

県
 <事業委託>
 ・委託期間: 2年間
 ・委託費: 50万円以内/年
 ・活動の立ち上げ経費

想定スケジュール (2か年継続)



活動例(先進事例)

- ◇釈迦内サンフラワーPJ(秋田県大館市釈迦内地区)・・・地区まちづくり協議会が運営主体となり、小学校を中心に町中の人々が参加し、「ひまわり」を栽培。その種から出来る油を加工、販売。あらゆる団体、企業、個人が協力体制を敷き、ひまわりを核に地域を活性化。
- ◇たまゆメンバーズクラブ(松江市玉湯町)・・・中学生時代に町の文化祭の運営に関わった学生が卒業後にボランティアグループを結成。月1回のミーティングを行い地域でのイベントを企画。文化祭での模擬店の収益は活動資金に。